2．高大接続改革・教育課程改革と起業教育

大阪商業大学　副学長・総合交流センター長　南方建明

1　高大接続改革

「高大接続改革」の実施に向けた議論は、中央教育審議会「高大接続改革答申」（2014年12月）に始まる。同答申では、教育改革の目標を次のように掲げている。「これからの時代に社会で生き抜いていく若者たちが、十分な知識と技能を身につけ、十分な思考力・判断力・表現力を磨き、主体性をもって多様な人々と協働することを通して、喜びと糧を得ていくことができるようにする」。すなわち、「高大接続改革」は、学力の３要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を育むために、「高校教育」「大学教育」、両者を接続する「大学入学者選抜」を一体的に改革しようというものである。

その後、高大接続システム改革会議「最終報告」（2016年３月）において基本的な指針が示され、さらに文部科学省「高大接続改革の実施方針等の策定について」（2017年７月）において、次のような方向性が示された。

⑴　高校生のための学びの基礎診断

「基礎学力の確実な習得」と「高校生の学習意欲の喚起」を図るために、学習成果を測定するツールとして民間の試験を認定するもの。2017年度中に認定基準が策定され、2018年度中に認定制度の運用が開始される予定である。

⑵　大学入学共通テスト

現行の大学入試センター試験に替わるものとして、2020年度から実施され、国語および数学に記述式が導入される。英語は、「読む」「聞く」の２技能に、「話す」「書く」を加えた４技能が評価されることになる。

⑶　大学入学者選抜（2021年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告）

高校教育と大学教育を接続する大学入試においては、「学力の３要素」を多面的・総合的に評価することを求めている。

「AO入試（総合型選抜）」では、調査書等の出願書類だけでなく、小論文、各教科のテスト、資格・検定試験の成績などを活用することとし、志願者本人が記入する「活動報告書」には、次に掲げる項目の記載が例示されている。①「総合的な学習の時間」等で取り組んだ課題研究等、②学校内外で取り組んだ活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動、資格・検定、各種大会・コンクール、留学・海外経験等）。

「推薦入試（学校推薦型選抜）」においても、調査書・推薦書等の出願書類だけでなく小論文や各教科のテストを活用することを求めている。さらに、校長からの推薦書では、単に本人の長所だけではなく、学習歴や活動歴を踏まえた学力の３要素に関する評価について記載することとしている。

2　教育課程改革（新学習指導要領）

「高大接続改革」と車の両輪となるのが学習指導要領の改正による「教育課程改革」である。新しい学習指導要領は、2016年12月に中央教育審議会から答申が行われ、高校では2022年度から年次進行により順次実施される。

新学習指導要領では、「何を学ぶか」に加えて、「何ができるようになるか」について学力の３要素を掲げ、さらに「どのように学ぶか」としてアクティブ・ラーニングを前面に打ち出している。そこでは、「学習内容を人生や社会のあり方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けること」、そのためには「主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会のあり方を結びつけたり、多様な人との対話で考えを広げたり、各教科等で身につけた資質・能力を様々な課題の解決に生かすよう学びを深めること」が重要であると指摘している。

3　「起業教育」で育成する能力

本学では、起業教育の目標を次のように定めている。「起業教育は、必ずしも将来の起業家を育成するという狭義の意味ではなく、起業家精神と起業家的な資質・能力をもった人材、ビジネス社会において新規事業開発、新しい商品やサービス、新しいビジネスモデルの創造と継続的革新を担う人材を養成する」（大阪商業大学起業教育研究会編『高校生のための起業教育ワークブック』2005年３月）。

「ビジネスアイディア甲子園」への取り組みなどの「起業教育」はまた、「高大接続改革」や「教育課程改革」が目指す学びに向かう力や思考力・判断力などを育てるものである。「起業教育」を通して、また「アクティブ・ラーニング」を通して、それまであまり意識していなかった自分自身の強み・弱みに気づき、その強みを伸ばす方向で将来を設計することは、社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てる「キャリア教育」の目指すところでもある。

今日、求められている教育は、「単に知識を詰め込むのではなく、それを応用して主体的に考えること」「今学んでいることが人生のあり方や社会における様々な問題解決にいかに貢献するのかを意識させ、能動的な学びを引き出すこと」といえる。